

2025年2月20日

2024年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人日本防災用品技術研究協会

代表者・役職名 氏名 星野幸雄 理事長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

老いも若きも皆一緒に避難

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

義理の母(92才:要介護度1)が同居する事になりました。身体的には問題は無いが縁内障で視野が狭く足元が見えなく手を引かなくては、普通の歩行が困難です。避難所まで2kmです。地震等の避難時に自家用車の使用は、渋滞の本で緊急自動車の交通の妨げになります。そこで介助運搬車の開発を行い他の人達にも必要性があると思い。2018年にNPOを創設しました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

東日本大震災では死者の64.4%が60才以上です。高齢者ほど死亡率が高くなっています。発災時の避難では町内会・自治会の現場(老老介護ならぬ老老避難)(平日の日中では女性・子供)では、助け合いを行い避難する具体的な手段・道具が見当たらないです。災被災者の話には、となりのおばあちゃんと一緒に避難(逃げる事)でなかった。自分だけが逃げてしまった事を心に悔やむ人達も大勢おられると聞きます。被害者になる人また、助ける事が出来なかつた事をトラウマになり悩む人を一人でも減らせる手助けになればと思います。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

・リヤカーは利用者を後ろに乗せた時にコミュニケーション(会話)出来ない。そして大きいので小回りが良くない。
・車椅子は、前輪が小さいので悪路での走行が難しく、利用者と搬送者が同一方向に有るのでコミュニケーション(会話)が難しい。
・担架類は、2名以上の人員が必要。そして、重いので長い距離での搬送は疲れる。・おんぶ方式は重いので長い距離での搬送は疲れる。
◎介助運搬は、一人での搬送が可能で悪路に強く、テコの原理を利用して軽く持ち上げる事が出来て、利用者を前に乗せてるのでコミュニケーションが出来る。(災害時では利用者は大変不安なので、このコミュニケーションは大事なファクターです)

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

避難用具である介助運搬車を多くの人達に知って利用していただく為に内閣府：ぼうさいこくたいに参加を決めました。10月19、20日の熊本ぼうさいこくたいでは全体で1万7千人以上の参加でした。屋外展示(花畠広場)へも多くの方が来場されました。

介助運搬車の試乗展示テントへは、2日間で350名(防災関係者・家族連れ・シニア)の方々より試乗頂き95%以上の方々より「有りそうで無かった発想」の避難用具との高評価を頂きました。

今回のぼうさいこくたいは九州地域でははじめての開催となり近県の防災の関係者及び一般市民の方々においいただきまして大きな認知効果が有りました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

介助運搬車は新規性が有るので特許を取得できました。その新規性の為に一般的に知られていないのが最大の問題です。試乗会を行いますと多くの人からは「有りそうで無かった発想」で見た目では重そうだが実際の走行では、搬送者は1/7の力で持ち上げる事が出来て軽く搬送できる。利用者は安全ベルト・足置きなどで安全・安心した乗り心地だと感想を頂きます。今後も出来るだけ知って頂く為に試乗会に参加して行く事が一番大切だと思います。そして、シニア・身体・目の不自由方々の被害及び一緒にとなりのおばあちゃんと避難(逃げる)出来なかった事を悔やむ人達を一人でも減らせるようにしたいです。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください

